

〈シリーズ展 11〉 仏教の思想と文化 — インドから日本へ —

## 特集展示 仏像ひな型の世界Ⅲ

2022

1/9(日)~2/13(日)

2/19(土)~3/21(月・祝)

開館時間：10時~17時 ※入館は16時30分まで

休館日：月曜日(ただし、1月10日、3月21日は開館)



過去2回開催した「仏像ひな型の世界」展の第3弾！江戸時代から平成まで15代にわたって系譜を連ねた京都仏師・畑治良右衛門が伝えてきた雛型420件のなかから、第1・2回ではご紹介できなかった雛型を中心に展覧します。雛型は、大きな仏像を制作する前に、構造や木材の必要量を計算し、どのようにすれば効率的に制作できるかを考える縮小模型としての役割のほか、仏師にとっては様々なかたちで役立つものでした。また、ときには今は失われてしまった彫像の姿を我々に伝えてくれる存在でもあります。造像時のいわば裏方である雛型を通して、江戸時代の活発な造像活動や仏師たちの息遣いを感じ取っていただけましたら幸いです。

### 【雛型とは】

雛型は建築でいえば設計図面にあたる存在です。大きな仏像をどのようにして効率的に制作するかを考えるためのミニチュア（あるいは縮小模型）として、または注文主である施主や発願者にみせる完成予想図としての役割などを果たしたのでしょう。さらに、完成品は注文主に納めれば手元を離れてしまうため、どの像をどのような木組で制作したかを記録する手控えとしても役立ちます。小さな雛型ではありますが、彫像を制作する仏師やその工房にとってはまさに財産に値します。

### 9・10 聖僧文殊菩薩坐像および台座／江戸時代 文化13年(1816)

東京都文京区駒込にある吉祥寺は、第二次世界大戦によって経蔵と山門のほかはほぼ焼失しました。しかし本品は文殊菩薩のほか獅子と台座を具備する雛型で、さらに大きさまで記されていることから、失われる前の姿を具体的にイメージすることが出来ます。



### 12 毘沙門天立像／江戸時代

奈良・朝護孫子寺の護摩堂本尊(17~18世紀)を写した雛型。朝護孫子寺像は複数の板材を集成してあたかも一木造りのような特殊な技法で制作されています。良質な木材を用いていることから特別な像として制作されたと考えられ、それゆえに雛型として写されたのでしょう。

### 13 力士形立像／江戸時代

腰に巻かれた布には作者が康知の弟子「佐々木五□□」であると書かれています。香川・根香寺大威徳明王像にも康知の弟子・佐々木内匠の名がみられ、埼玉・普門寺阿弥陀如来像には佐々木の苗字がつく仏師名が記されています。本雛型の「佐々木五□□」も康知の弟子として活躍した佐々木一門の一人なのでしょう。

26 布袋胸像／江戸時代 文政元年（1818）



大貳（31代康朝）が東京・寛永寺の子院である見明院におさめた布袋像の雛型。康朝は文政元年（1818）5月に亡くなっており、本雛型は康朝没後につくられたものです。また見明院は昭和20年の戦災により堂宇等を焼失しており（昭和23年再建）、康朝の布袋像も失われたとみられ、本雛型はありし日の姿をうかがう唯一の手掛かりです。

27 恵比須神坐像／江戸時代 天保5年（1834）



満面の笑みで左小脇に大魚を抱え、ふくよかな体型の恵比須の像ですが、像底には「蛭大黒」と書かれていることから、しばしば恵比須と一對をなす大黒天との合体像であることがわかります。作者の35代康教は実質的に最後の七条仏師となり、七条仏師は江戸時代の終焉とともに途絶えます。しかしその造像の伝統は畑治良右衛門ら弟子達によって受け継がれていきました。

37 亀翁良鶴胸像／江戸時代



長崎・皓臺寺の開山である亀翁良鶴（？～1636）の胸像。作者は29代康音（1783年没）と雛型には記されていますが、良鶴の寿像（生前につくる肖像）であるなら23代康音（1682年没）の活動時期と重なります。さらに同寺開山堂に亀翁良鶴坐像とともに安置される一庭融頓坐像の台座に「大仏師 法橋康伝作」の刻銘があることから、この台座は本来、亀翁良鶴像のものであったと推測されています。つまり完成品は23代康音、新調された台座は康伝（27・28・30代のいずれか）、そして雛型は29代康音がつくったと考えられます。

39 天桂伝尊胸像／江戸時代 享保7年（1722）



大阪・陽松庵に安置されている天桂伝尊（1648～1735）坐像の雛型です。陽松庵像の銘文にも享保7年（1722）に28代康伝によってつくられたと書かれています。雛型と実作品を頭頂～顎までの長さで比較すると、雛型は実作品の約4分の1の大きさで作られていることがわかります。また頭部の骨格や皺の形状、そして陽松庵像の峻厳な面持ちまでよく写されています。

44 有徳院坐像／江戸時代 宝暦2年（1752）



有徳院とは江戸幕府8代将軍徳川吉宗（1684～1751）のこと。吉宗像（狩野忠信筆、徳川記念財団所蔵）に描かれる特徴的な大きな耳が本品と共通します。宝暦2年という年号から29代康音が作者とわかります。仏師系図にも康音の事績として寛永4年（1751）の有徳院の肖像・位牌が記されていますが、完成品は現在のところ確認されておりません。

54 邪鬼／江戸時代 寛文2年（1662）



まるまるとした邪鬼のコミカルな表情が魅力的な雛型です。像底に記された銘文によると邪鬼の上には青面金剛が立っており、康正の弟子・久七康以が80歳のときにつくった像の雛型のようなようです。あまりに見事であったので雛型に写したと読むことができます。

【 畑治良右衛門と雛型 】

420件の雛型を伝えた畑治良右衛門は、現在当館が立つ場所の近くに江戸時代より居を構え、西本願寺をはじめとする寺院の造像に携わってきたとされています。質量ともにこれほどの雛型がまとまって伝来する例は珍しく、来歴が確かであることにくわえて江戸時代の造仏界をリードした七条仏師の名前や制作年がかかれたものが多数含まれている点でも非常に貴重な資料です。本章では、雛型とともに伝来した『図案集』や15代目が使用した道具類などを展示し、江戸時代から平成まで続いた畑治良右衛門についてご紹介します。

73 弘法大師坐像／江戸時代 文化14年（1817）



この弘法大師像には、420件ある畑治良右衛門雛型群のなかで唯一「畑治郎右衛門」の名が像底に記されています。畑家系図（原本の現所在不明）によると、11代目（明治4年〔1871〕没）が造ったと考えられます。頭・体幹部材に脚部材を短くしており、額中央や袈裟の襟元などに錐点を確認できます。

74 道具類／現代

15代目畑治良右衛門が所有した小刀、鑿、鉋、砥石などの道具類です。鑿や小刀の柄の部分には「畑」と刻まれています。いずれもよく手入れがなされており、今でも治良右衛門が手に取る様子を思い浮かべることができそうです。

## 【 比叡山と雛型 】

元龜2年（1571）の織田信長による比叡山焼き討ちによって、延暦寺をはじめとする全山が甚大な被害を受けました。その後、延暦寺の堂塔や日吉社は復興事業が進められ、徳川家光や綱吉の時代には根本中堂の大規模な再興・修復が行われます。建築の修理にあわせて安置される彫像も新造され、また修理もされました。像の制作や修理の際には21代康正や28代康伝などの七条仏師が活躍しました。本章では、江戸時代の山門復興期における、根本中堂などに安置された仏像や比叡山に鎮座する神々の雛型をご紹介します。

79 慈恵大師坐像／江戸時代 宝永4年（1707）

80 慈恵大師胸像／江戸時代 元文5年（1740）

比叡山中興の祖とされ、元三大師の名で親しまれる慈恵大師良源（912～985）の坐像。比叡山延暦寺では、元禄16年（1703）より根本中堂の修理が行われました。その際に仏像の修理を担当した28代康傳によってつくられた雛型がNo.79です。銘文からは、東塔に安置されていた良源像を写したものと解釈できます。また、No.80は西塔の本堂にあたる釈迦堂に安置された慈恵大師像で、宝暦4年（1754）に日吉大社や延暦寺根本中堂諸像の修理にあった29代康音の名前が書かれています。



No.79 慈恵大師坐像

82～87 山王神（大比叡・小比叡・客人・十禅師・牛御子）坐像／江戸時代 牛御子：寛文9年（1669）

88 百太夫立像／江戸時代 寛文9年（1669）または宝暦2年（1752）

比叡山麓の滋賀県坂本に位置する日吉大社には、大比叡や小比叡などの二十一社をはじめとする神々が祀られています。日吉大社は延暦寺一山の鎮守社となり、天台宗の発展とともに山王神への信仰も全国的な広がりをみせました。No.82～88の雛型は珍しい彫刻の姿であらわされた山王の神々です。

日吉社の神像は元龜2年（1571）の叡山焼き討ち後、康正（1534～1621）によって新造されます。また正徳・享保年中（1711～1736）に28代康伝が修理にあたった記録が残されていますが、雛型には26代康祐倅や31代康朝倅の名前がみられることから江戸時代を通じて何度も修理が行なわれたようです。



No.82 大比叡




No.85 客人



No.88 百太夫

出品番号	名称	法量 (c m)	時代	銘文翻刻
雛型とは				
1	金剛力士立像	阿：像高17.8 吽：像高17.7	江戸時代	
2	如意輪観音菩薩坐像	像高9.3	江戸時代	
3	如意輪観音菩薩坐像	像高5.9	江戸時代	像底「三井寺口」
4	白衣観音菩薩坐像	像高10.8	江戸時代	
5	菩薩坐像	像高7.8	江戸時代	背面「法橋友学作也」
6	菩薩立像	像高22.7	江戸時代	
7	菩薩立像	像高16.5	江戸時代	
8	妙見菩薩立像	像高20.6	江戸時代	
9	聖僧文殊菩薩坐像	像高8.2	江戸時代	像底「吉祥寺／文殊衆／江戸髮際二尺三寸」「江戸吉祥寺」
10	聖僧文殊菩薩像 台座	幅13.3	江戸時代 文化13年 (1816)	上面「三尺九寸」 底面「文化十三〔子〕歳夏／江戸駒込／吉祥寺／僧形文殊形／十分一」
11	勢至菩薩立像	像高17.7	江戸時代 宝暦6年 (1796)	背面「大勢至／宝暦六〔子〕／十一月十九日／左京康音弟子／石河専右衛門／作之／口」
12	毘沙門天立像	像高13.3	江戸時代	背面「大和信貴山写／信貴山／様」
13	力士形立像	像高18.7	江戸時代	背面「康知ノ弟子／佐々木五口口作」
14	天部形坐像	像高8.7	江戸時代	
15	多聞天立像	像高20.2	江戸時代	背面「多聞天／康知ノ弟子／中川写是作」
16	広目天立像	像高18.5	江戸時代	背面「廣目天／康音弟子十左弟子／菅口彦兵衛／作」
17	二十八部衆のうち釈王三十三像 頭部	高7.8	江戸時代	背面「釋王／三十三」
18	二十八部衆のうち満善車王像 頭部	高8.4	江戸時代	背面「満善／車王」
19	二十八部衆のうち神安女像 頭部	高7.2	江戸時代	背面「神安女」
20	二十八部衆のうち迦楼羅像 頭部	高8.6	江戸時代	背面「カルラ」
21	雷神立像	高9.3	江戸時代	背面「清水の内」
22	半遮羅大将立像	像高17.2	江戸時代	背面「北方／半遮羅夜叉」（ふりがな「ハンシヤラ」付）
23	閻魔王坐像	像高12.8	江戸時代	
24	隨身坐像	像高（坐高）7.9	江戸時代	像底「江戸／山王門写／康知作」
25	羅漢坐像	総高6.1	江戸時代	
26	布袋胸像	高12.4	江戸時代 文政元年 (1818)	左肩矧面「木壽／座像惣長壹尺／ゆき巾壹尺壹寸五／奥口口九寸五分／持物ヤノスケ」 背面「東叡山見明院／注文床置物／布袋／大貳作」 右肩矧面「文政元寅八月／作之」

出品番号	名称	法量 (c m)	時代	銘文翻刻
27	恵比須神坐像	総高12.0	江戸時代 天保5年(1834)	像底部「天保五年五月／蛭大黒／三十五代／左京康教／作之」
28	大黒天立像	像高8.0	江戸時代	
29	寿老人立像	像高13.3	江渡時代	
30	傳大士像 頭部	高12.0	江戸時代 享保19年(1734)	背面「北野／輪藏／傳大士面／享保十九／寅十一月十一日／法眼康傳作」
31	弘法大師胸像	高8.7	江戸時代	背面「清水寺／弘法大師面」
32	日蓮上人坐像	像高8.4	江戸時代 寛政6年(1794)	像底「寛政六〔寅〕十月／右坂本山王／七社権現之内／十禪師形／清水友学康道／日蓮上人／左経／右扇」
33	道元禪師像 頭部	高10.6	江戸時代 嘉永5年(1852)	首側面～背面「正幸判官／嘉永五壬子年／永平寺道元／禪師六百大遠／忌口再興二下也／庫院／尊像／写之／三十五世／左京康教／行年廿二才」 頭部「者口」
34	龜山法王像 頭部	高8.5	江戸時代	背面「南禅寺／龜山法王」
35	在室和尚像 頭部	高10.5	江戸時代	背面「紀州金龍寺／二而開山／在室和尚」
36	獨湯和尚胸像	高8.6	江戸時代	背面「肥前小城／真照寺／獨湯和尚」
37	龜翁良鶴胸像	高9.7	江戸時代	背面「長崎／皓臺寺開山／龜翁禪師／壽像／廿九世／左京康音」 像底「康音／□□□」
38	董元和尚胸像	高9.0	江戸時代	背面「董元面」
39	天桂伝尊胸像	高11.2	江戸時代 享保7年(1722)	左肩矧面「□□／□方」 背面「天桂和尚像／天桂和尚像／七十六才／享保七年卯六月／廿八世法橋康傳」
40	長雲寺和尚胸像	高9.2	江戸時代	背面「出羽庄内／長沼／長雲寺／和尚面相／生写」
41	蓮華庵光祐胸像	高10.3	江戸時代 元禄15年(1702)	首側面～背面「上州邑楽郡／館林谷越邑／蓮華庵光祐(花押)／積年六十五萃／元禄十五〔壬午〕天／九月八日」
42	龍雲寺開山和尚胸像	高9.4	江戸時代	背面「羽州米沢掛石中山／龍雲寺開山像」 右肩矧面「信州源信寺／六世様／但□□□色ぶ」
43	雲秀和尚胸像	高6.8	江戸時代	背面「越後國／龍運寺／開山曇秀和／尚像」 右肩矧面「者とう／眼中」
44	有徳院坐像	高8.9	江戸時代 宝暦2年(1752)	像底「宝暦申／四月四日調進／御禅□人／有徳院様尊形／左京康音作」
45	逍遙院坐像	像高3.9	江戸時代 寛政5年(1793)	像底「和州郡山城主／松平美濃守様／御用／西三條右大臣入道／逍遙院殿像／寛政五丑年五月／三十代／法眼左京調進」
46	俗人胸像	高9.0	江戸時代	
47	俗人胸像	高9.9	江戸時代	
48	俗人像(男女) 胸像	男：高7.5 女：高8.0	江戸時代	
49	僧形胸像	高8.0	江戸時代	左肩矧面「半徳ニ／扇持ス」 背面「大塚屋與九良ノ／御願／大徳寺中／碧玉庵／役者／捌首座／誂之」
50	俗形像 頭部	高7.0	江戸時代	首側面～背面「唐仙／関白王面／此所くし／あしく」

出品番号	名称	法量 (c m)	時代	銘文翻刻
51	俗人像 頭部	高5.0	江戸時代	
52	俗人像 頭部	高5.0	江戸時代	
53	俗人像 頭部	高7.2	江戸時代	
54	邪鬼	総高5.0	江戸時代 寛文2年(1662)	像底部「此ノあまの／じゃごハ／勤修寺権大納言経廣／都江□□ □致ノ青面金剛／ノの□□了あまのじゃこ／沢賀江久七康以作り ／了正あまり見事に候／右康知乃弟子法定ト／申人ニ願うつし言 し次ハ／左申入□□□之作□／于時寛文二壬寅正月／十七日見 時□廿□／巳ノ計□来了」 背面「右ノ青面金剛ハ康正以弟子／久七康以八十才ノ時作り了／ 寛文□年ノ□時申付作了」 側面「あまのじゃこかくの□□□／□□□□来了」
55	邪鬼	幅6.0	江戸時代	像底部「木□／御尺七寸七分」
56	邪鬼	幅9.6	江戸時代	
57	邪鬼	幅10.8	江戸時代	像底部「廣」「目」
58	鬼形立像	像高15.4	江戸時代	
59	鬼形立像	像高14.2	江戸時代	
60	鬼面形	高4.3	江戸時代 寛延4年(1751)	背面「鬼面形／寛延四〔辛未〕年六月／廿九代法橋左京門弟石河 専右衛門作／十九才」
61	邪鬼	高5.3	江戸時代	
62	邪鬼	高3.3	江戸時代	像底部「廣目」
63	邪鬼	長8.0 高3.7	江戸時代	
64	邪鬼	高3.4	江戸時代	
65	獅子	高7.8	江戸時代	背中「御本山／白獅子」「法橋／左京作之」
66	獅子	高7.2	江戸時代	腹部「座一寸二分／高十五入二十」
67	獅子座	高4.8	江戸時代	
68	獅子	長6.3	江戸時代	
69	獅子	高3.7	江戸時代	
70	獅子	高11.8	江戸時代	
71	象	高6.6	江戸時代	腹部「ぶつ所／十五／入廿／一座／一寸二分」
72	狛犬	高10.6	江戸時代	
畑治良右衛門とひな型				
73	弘法大師坐像	像高8.8	江戸時代 文化14年(1817)	像底部「文化十四  佛師／畑治郎右衛門作／弘法大師」
74	道具類		現代	
75	図案集		江戸時代～現代	

出品番号	名称	法量 (cm)	時代	銘文翻刻
76	菩薩形坐像	像高23.2	現代	
比叡山とひな型				
77	天台大師坐像	像高6.0	江戸時代 元文2年(1737)	背面「天台大師」 像底部「元文二ノ巳九月一日ノ法眼康傳作」
78	慈覚大師坐像	像高6.6	江戸時代 宝暦6年(1756)	像底部「中堂ノ慈覚ノ法眼康傳之作也ノ山門中堂四大師内ノウツシノ慈覚大師像ノ寶暦六〔子〕十月六日ノ石河専右衛門ノ作之ノ座式寸五分」 頭部背面「慈覚大師ノ御かしら」
79	慈恵大師坐像	像高5.4	江戸時代 宝永4年(1707)	正面「山門中堂ノ慈恵大師写ノ宝永四年ノ亥十月十八日ノ山門ニテ康傳作之」 右側面「東塔作」
80	慈恵大師胸像	高9.0	江戸時代 元文5年(1740)	背面「比叡山ノ山門西塔釈迦堂ノ慈恵大師面ノ元文五申八月日ノ廿九世ノ大佛師康音」
81	天台宮様坐像	像高8.0	江戸時代 元禄4年(1691) または宝永6年(1709)	像底部「元禄二二年ノ未ノ二月吉日ノ清水遊学作ノ廿七才ノ天台宮様之像」
82	山王神(大比叡)坐像	像高8.8	江戸時代	像底部「康口ノ大比叡御鈴四十口ノ口口才ニ而作之」
83	山王神(小比叡)坐像	像高8.2	江戸時代	像底部「康祐倅ノ小比叡七十斗余」
84	山王神(客人)坐像	像高8.7	江戸時代	像底部「康朝倅ノ客人二十才年ノ清水内近ノ作」
85	山王神(客人)坐像	像高8.7	江戸時代	像底部「六廿口代康口口倅口ノ三宮二十才口口口ノ廿三口口ノ作之」
86	山王神(十禅師)坐像	像高8.3	江戸時代	背面「康祐倅ノ十禅師ノ二十才ノ左経ノ口口口ノ右慶國ノ作之」
87	山王神(牛御子)坐像	像高7.0	江戸時代 寛文9年(1669)	像底部「山王二十一社中七社之第二ノ牛御子御神躰木之ノ寛文九〔己酉〕曆山王社再興之ノ作之者也康永代右京作」
88	百太夫立像	像高12.8	江戸時代 寛文9年(1669) または宝暦2年(1752)	背面「山王二十一社之内八王子末社ノ百大夫像也ノ寛文九〔己酉〕曆後十月日ノ宝暦二ノ甲八口四口」
89	十二神将立像のうち亥神	像高16.1	江戸時代	背面「毘叡山ノ中堂十二神ノ之内うつしノ康知」
90	左脚部	長17.6	江戸時代	背面「毘叡山中堂ノ十二神之内ニノ此是有をノうつし康知」
91	毘羅婆像 頭部	高7.6	江戸時代 宝暦5年(1755)	背面「康傳様傳うつ寸」 像底部「御用時ノ無動寺法曼院ニ而作ノ山門中堂毘羅婆面ノ宝暦五〔亥〕四月法眼左京康音ノ門弟廿四才石野専右衛門ノ作」

- ・本資料は、龍谷大学龍谷ミュージアムで開催される特集展示「仏像ひな型の世界Ⅲ」(2022年1月9日～3月21日)の解説および出品リストである。
- ・作品番号は陳列番号と一致するが、陳列順とは必ずしも一致しない。
- ・時代の欄に記載した和暦は、雛型に記された年号である。完成品の制作年代をさす可能性もあり、必ずしも雛型の制作年代をさすものではない。
- ・出品作品のうち、銘文の翻刻については原則として旧字体を用いた。また「ノ」は改行を、〔〕内は割註をあらわす。
- ・「畑治良右衛門」の表記については、「畑治郎右衛門」などいくつか存在するが、本展覧会においては「畑治良右衛門」に統一した。
- ・作品解説および章解説などは丹村祥子(龍谷大学 龍谷ミュージアム)が執筆した。  
銘文の翻刻は大森佳恵、岡本果也、吉竹智加が担当し、丹村祥子が監修した。
- ・本展の開催にあたり下記の方々からご協力ならびにご教示を得た。(五十音順、敬称略)  
皓台寺 陽松庵  
浅湫毅 西谷功 長谷洋一